

青嵐（あおあらし）とは、「初夏の木々の葉をゆすって吹くやや強い風」、「青々とした山の気」などの意味がある言葉です。逗葉高校を吹き抜けるさわやかな風と、生徒の皆さんのたくましさをイメージしました。第2回は、「言葉について」です。

逗葉高校の皆さん、ゴールデンウィークも終わりましたね。連休中は部活動や校外での活動、家族や友人とのふれあい、あるいは一人でのんびりなどなど、それぞれに充実した時間を過ごせたことと思います。しかしふと気付けば、中間テスト目前です。気持ちを切り替え、リフレッシュした心と体で、しっかりと学習に取り組んでください。

さて、私はこの連休中に、定期的に通院している動物病院に4頭のフェレット(大切な家族です)を連れて行きました。そこは診察が丁寧なので、当然待ち時間も長いので、いつも文庫本を1冊持参します。今回選んだのは、以前学校の図書館で借りて読み、少し前に文庫化されたので購入した、三浦しをん作「舟を編む」です。皆さんの中にも読んだ人がいると思いますが、今回読み返してみても、とても楽しめました。

その作品のラスト近くに、「死者とつながり、まだ生まれこぬものたちとつながるために、ひとは言葉を生み出した。」という文章があります。

今の時代は、その気になれば世界中の会ったこともない人たちと、SNSやWebを介してリアルタイムで情報交換をすることができます。様々な考え方や感性を持った人々が、たとえ距離や年齢が遠く離れていても、自由に交流できる時代になってきました。

一方、死んでしまった人の「ことば」は文字になっていないと、もう知ることができません。どんなに思いをこめた「ことば」も、口から出た瞬間に消え、やがて忘れ去られていってしまいます。だから「ことば」を文字や文章にすることは、人類の「知恵」や「思い」を遠い過去から受け継ぎ、変化や進化をさせながら、まだ見ぬ未来へとつなぐ大切な営みだと思っています。

では、文字となっていない「ことば」は儚いものなのでしょうか？もちろん違います。その瞬間の感動や情熱を、文字とは違う力強さで、相手に伝えることができるのが「ことば」です。私たちは、伝えたい思いを「ことば」で語り、相手の「ことば」に耳を傾けて、互いに理解し合うのです。

「ことば」は、単なる伝達ツールではなく、人々の文化を繋ぎ、歴史を繋ぎ、心を繋ぐ大切なものです。例えば、皆さんが英語の勉強をすることは、もちろん将来的な必要に応えるためという面もありますが、自分たちと異なる「ことば」の背景にある、文化や歴史や心を知り、その「ことば」を使う人々とつながるためでもあります。

旧約聖書の中に、天にも届くほどの巨大な塔を建設しようとした人類の傲慢さに怒った

神が、人々の言語をバラバラにしたために、皆、話を通じなくなって気持ちもバラバラになり、塔の建設をやめてしまった。という話があります。「ことば」が違うということが、皆で心や力を合わせて何かをなそうとする上で、大きな障壁となるということは、大昔から知られていたのでしょう。

ところで、皆さんは神奈川県「手話言語条例」を知っていますか？この条例は、『手話ろう者(聴覚に障害があり普段手話を使っている人)にとっての言語であるという認識に立って、ろう者とろう者以外の人々が、互いの人権を尊重して、意思疎通を行いながら共生することのできる社会を実現する』ために平成26年に制定されました。

手話が言語であることを多くの人々が知って、手話に親しみ、互いに理解を深めるために、県の責任や県民の役割、手話の普及推進のための計画などを定めたのです。

私たちが耳で聞く「ことば」と同じように、手話は、ろう者にとって、思いを伝え人とつながるための、目で見える「ことば」です。耳で聞く「ことば」と目で見える「ことば」は違う言語、互いに外国語のようなものだといえます。

外国語を話す相手の言っていることを理解しようとするより前に、コミュニケーションそのものをあきらめてしまうのは、もったいない話です。判らないから遠ざけるのではなく、『それってどういう意味？これってどう表現するの？』そんな風に興味を持ってみてはどうでしょう。外国語の勉強で新しい単語や言い回しを覚えて、視野が広がるように、手話を知ること、新たな世界に足を踏み入れることができるかもしれません。外国語を学ぶように手話を学んで『バイリンガル』を目指すのも良いかもしれませんね。

手話の簡単なフレーズについては「神奈川県ホームページ」にも掲載されています。トップページの検索欄に、「手話言語条例」と入力して検索してみてください。県の職員が動画で紹介しています。スマホやPCからアクセスしてみたいですか？

日曜夜のEテレ「みんなの手話」もなかなか楽しい番組ですよ。

私たちヒトは、言語を生みだして互いにつながること、生きてきました。これからも、自分の「ことば」を大切に発し、相手の「ことば」を丁寧に聴くことを心がけていきたいと思っています。

平成28年5月12日 校長 大貫 晶子